

孫の手通信



第17号

平成23年7月5日

玉川孫一郎と歩む会

TEL/FAX: 050 (5549) 6005

<http://magoichiro.blog47.fc2.com/>

JR上総一ノ宮駅、東口 開設に向け大きく前進

上総一ノ宮駅については、跨線橋を伸ばして東口に自動改札口を設置したいという町の提案に対して、JR側は、一駅一改札口の原則から橋上駅以外は認められないと、協議が難航していましたが、6月3日、JR東日本千葉支社から条件付で町の提案を認めるといううれしい回答をいただきました。

まだ解決しなければならぬ課題はありますが、永年の夢実現に向けて皆さまのご協力をお願いいたします。

一宮町長 玉川 孫一郎

※駅のエレベータについては、いつ工事がはじまるのか心配する声がありますが、現在本工事に向け、支障のある電気ケーブルの移転工事を夜間に行っており、8月中旬には本格工事が始まります。

補正予算について

6月21日に開かれた6月定例議会で国民健康保険税の

税率を改正し、津波対策を中心とした補正予算を策定しましたので、お知らせします。

2年連続 国民健康保険税を 大幅引き下げ

引き続き経済不況により、住民の生活は厳しいものとなっております。そのため国民健康保険税の税率を改正し、単身世帯や所得の低い方の負担を大幅に軽減しました。

医療分の世帯平等割額を4,200円引き下げ、後期高齢者支援分と介護分の世帯平等割額を廃止することにより、一世帯あたり平均1万8千円引き下げます。

(昨年2万1千円引き下げましたので、この2年間で3万9千円引き下げたこととなります。)

津波対策の経費を予算に計上

東日本大震災を教訓として町では、防災対策の見直しをしています。今回の補正予算には、防災無線の戸別受信機500台の購入費、津波避難マップの印刷費、地域防災組織(宮原自主防災組織)育成のための助成金、乳児用備蓄飲料水の購入費、海岸の水質検査手数料などが計上されています。

現在、町に住民票のある世帯には戸別受信機一台が無料貸与されていますが、複数の受信機を希望する方や事務所等に設置を希望する方は、これからは実費で設置できるようになります。

津波避難マップ

現在町では、東北地方を襲った10mの大津波にも対応できるように町内を等高線で5m、10mと10m以上の地域に色分けした緊急津波避難マップの作成を行っています。また避難する場所も見直しをしており、10m以上の高台にある学校などの公共施設を避難所とし、その他は一時(いつとき)避難場所として10m以上の民間施設等で昼夜いつでも避難可能なところにご協力をお願いしてい

ます。

今後は、区長さんや民間施設、近隣市町村等との協議が整いましたら、緊急津波避難マップを全世帯に配布いたします。

災害は、いつも家族が一緒のときに来るとは限りませんので、常日頃から家族で災害時の避難経路や集合場所など話し合ってください。

公民館の雨漏り防止工事

公民館は、老朽化により雨漏りが激しく、利用される方には大変ご不便をおかけしていましたが、今回の補正予算に1,942万5千円を計上し、屋上防水工事を行います。

「輝けちばの園芸」強化支援事業

町の基幹産業である農業の振興を図るため、トマトハウスの新設、リフォーム事業に予算を計上しました。

講演会のお知らせ

「私たちのまち・むら防災対策

— 東日本大震災からの教訓 —

講師 川端 信正(地震アドバイザー)

7月22日(金)午後6時開場

長生村文化会館 大ホール

共催 一宮町・長生村

災害による被害を軽減するためには、住民ひとりひとりが日ごろから災害について考え、地震や津波に対する正しい知識が必要です。皆さまのお出でをお待ちしています。

お詫びと訂正

孫の手通信第16号の一宮町を襲った津波の内容で「株式会社セブンイレブンジャパン様」となっていますが、正しくは有限会社吉野家本店(セブンイレブン上総一宮店)です。深くお詫びし、訂正します。

平成23年4月16日 朝日新聞

一宮町 新庁舎計画白紙に 大震災で建設地再検討

今回の地震と津波被害で一宮町の新庁舎建設計画が白紙に戻り、建設場所の再検討が始まっている。昨年8月に発足した町役場庁舎建設検討委員会は、建設場所を現在の庁舎敷地内としたが、震災後の3月23日に玉川孫一郎町長に提出された報告書では「大震災を教訓に再度検討願いたい」と結論を棚上げした。

玉川町長によると、住民からは、もっと内陸部に建設地にして、巨費を投じても頑丈な建造物にしてほしい、などという声が強まったという。

現庁舎は1967年に建設された鉄筋2階建て。97年の耐震診断では防災拠点としての構造耐震指標を下回っており、ひび割れなどが進んでいる。

検討委員会では、現庁舎敷地内のほか、JR上総一ノ宮駅近く、高台にある元農林試験場跡地を建設場所として検討。造成費がかかる、一定の広さを確保できるなどの理由から、今年2月の段階では現庁舎敷地が適地となった。

現庁舎は海から約2キロ離れている。町では1677年に高さ6.8メートルの津波被害があったが、現庁舎の位置は被害地域をわずかに離れている。だが、今回は10メートル以上の津波が各地を襲った。そのため不安があることから、役場内に庁舎建設推進委員会を設置して、建設場所を再検討することにした。玉川町長は「庁舎は防災の拠点になるため、早急に整備したい」と話している。

(高木和男)

平成23年4月25日 千葉日報

宮 地元特産品など集合 一 玉前神社参道で「さすが市」

地域の特産品などをテーマにした「一宮町の玉前神社参道で24日、「第7回クックショウ」を実施。作家回上総園「さすが市」が開かれた。

「さすが市」は、地域文化の核となってきた玉前神社の門前で、一宮町や周辺地域の伝統芸能や優れた技術を紹介しようと、NPO法人「さすが市」が主催している。

今年には、竹細工、ガラス工芸の作家、長閑町ながいきワゴン生産組合、一宮商業高校シネス研究部など約50店が出店した。



大勢の人でにぎわった「さすが市」=24日、一宮町

平成23年6月22日 朝日新聞

ながいきメロン 甘さ十分初出荷

一宮の共同選果場一宮町新地の長生農協共同選果場で21日、地元特産のマスクメロンの初出荷があった。写真。同町と白子町で生産され、長生郡にちなんで「長生ながいきメロン」とブランド名がついている。7月中旬までに約15万個を出荷する。東日本大震災による3月の計画停電で農家は暖房に苦労したというが、4、5月の好天で回復し、糖度も十分という。2玉で2500円前後から販売されている。



平成23年6月22日 朝日新聞

暑い夏へ 備えあれば愛いなし

クールビズは全会一致 一宮町議会

一宮町議会は21日の定例会で、議員16人と町幹部の全員が白色の半袖ポロシャツを着て議事を進めた。写真。ポロシャツの胸にはイメージキャラクターの「いっちゃん」のししゅうが入り、袖に「がんばろう！日本」とプリントされている。

町は、室温が32度以上にならないと冷房をつけないなどの節電対策を決めている。ポロシャツもその一環で着用しているが、閉め切った議場は風通しが悪く、半袖でも暑い。そのため、議会が始まると早速、扇子でおおぐ議員もいた。

町のポロシャツは7色あり、職員は好きな色を選んで着ている。



海水浴場の放射能濃度

一宮町で検査開始

調査は15日にも海水浴場の放射能濃度の測定調査を行う。調査は5月にも県内4カ所の沖合2メートルで海水中の放射能濃度を調査しており、いずれも不検出だった。

調査は福島第1原発事故を受け、海水浴などで海を利用する予定の観光客などに不安が広がっていることから、不安を解消しようと実施される。

調査ポイントは今年、海水浴場を開設する予定がある18市町村に1カ所ずつ設定した。この日は、調査員が九十九里浜と銚子市の海水浴場10カ所を調査。水深1.5メートル付近で、3センチの海水をくみ上げた。



海水の調査を行う調査員。14日、一宮町

平成23年6月15日 毎日新聞

プール開き 児童ら歓声

一宮 東浪見小



一宮町立東浪見小学校(原蔵睦校長)で14日、例年通りの時期にプール開きが実施された。東京電力福島第1原発事故を受けた町に由来するプールの検査で、放射性物質が検出されなかったことを受けたもの。曇り空の肌寒さのなか、全校生徒110人がプールサイドに集合。児童たちは各学年が掲げた今年の目標に向かい、練習することを書き合った。

授業では「サーフアートの町にあざわし」、地元在住のプロサーファーが、サーフボードの扱い方を指導。児童たちは歓声を上げていた。写真。

【吉村建二】